

ワイルドキャンプ2020～わんぱくたちの大冒険！～

募集 のつはるで 夏の自然を味わおう

のつはるの大自然の中で、川遊びや溪流釣り、野外調理などが体験できます。対象は、市内または豊後大野市大野町に居住の小学4年生～中学生で、参加料は1,500円(食事代、使用料など)です。定員は40人で、多数時は抽選。申込みは、はがきに、氏名、性別、電話番号、学校名、学年を記入し、7月17日(金)〈必着〉までにのつはる少年自然の家(〒870-1221 大字荷尾杵1097-26)へ。
※無料送迎バスは運行しません。



- 日時：8月21日(金) 午前9時30分～午後4時30分
- 場所：平成森林公園キャンプ場
- ☎ のつはる少年自然の家 ☎589-2212

大分市の農林水産フォトコンテスト

募集 農林水産業・産物を撮影したオリジナル作品を応募しませんか

「大分市の素晴らしい農林水産業、農林水産物を見つけました！」をテーマに、農林水産フォトコンテストを行います。申込みは、農政課(本庁舎8階)に備え付けの応募用紙(市ホームページでダウンロードも可)に記入の上、作品の裏面に貼付して、9月18日(金)〈必着〉までに、農政課へ。



- 募集規格
 - ・2L版またはキャビネ版。白黒、カラーいずれでも可。
 - ・元年9月19日～2年9月18日に撮影したもの。
 - ・応募者本人が撮影した未発表作品で、2次加工、組み写真は不可。
- 賞：最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞など13点
- その他：応募作品の著作権は市に帰属し、広報活動などに使用します。提出された写真は返却しません。入賞作品の表彰式は、11月に開催予定の「おおいたマルシェ」で行います。

☎ 農政課 ☎537-7025

市内のビーチやプールがオープン

お知らせ 水に親しむ季節の到来！海やプールで楽しみませんか

田ノ浦ビーチと河原内川河川プール、日吉原レジャープールがオープン。利用時間や料金などは施設によって異なります。

- 田ノ浦ビーチ 無料
 - 期間：7月1日(水)～8月31日(月) 午前9時～午後5時
 - ※問合せ ☎537-7458
 - ※7月18日(土)・19日(日)・23日(木)～26日(日)、8月1日(土)・2日(日)・8日(土)～15日(土)は午前9時～午後7時
 - 設備：駐車場、屋外シャワー(無料) レストハウス内のロッカー・温水シャワー(有料)



- 河原内川河川プール 無料
 - 期間：7月1日(水)～8月31日(月) 午前9時30分～午後4時30分
 - ※問合せ ☎070-2406-4991 (期間外は河川・みなと振興課 ☎537-5632)
 - 設備：駐車場(80台・無料)、屋外シャワー ※更衣室は利用不可

- 日吉原レジャープール
 - 期間：7月11日(土)～9月6日(日) 午前9時～午後7時
 - ※問合せ ☎593-5162 (期間外はスポーツ振興課 ☎537-5650)
 - 料金：大人/530円 高校生/420円 小・中学生/330円 幼児(3歳以上)/110円
 - 設備：駐車場(180台・無料)
 - ☎ 各施設

ふれあい歴史体験講座第5回「七夕飾り作り」

募集 願い事を考えながら 楽しく竹飾りを作りませんか

笹竹に色とりどりの短冊や吹き流しなどを飾った竹飾りを作ります。作った竹飾りは持ち帰りできます。定員は各20人で、先着順。材料費として1人100円が必要です。小学3年生以下は保護者同伴です。申込みは、電話で、6月17日(水)から歴史資料館へ。



- 日時：7月4日(土) 午前9時30分～午後2時～
- 場所：歴史資料館

☎ 歴史資料館 ☎549-0880

市民図書館からのお知らせ

「本の七夕飾り」を飾ります **無料**

市民図書館(J:COM ホルトホール大分2階)中央カウンター前に、パンプツリーを設置します。短冊に「お薦めの本」を記入し、飾ってください。皆さんが書いた短冊で七夕飾りを楽しく飾りましょう。

設置期間：7月1日(水)～8月2日(日) ※7月13日(月)・27日(月)は休館日



☎ 市民図書館 ☎576-8241



このコーナーでは、市民図書館が所蔵している新刊を紹介します。



みんなで減らそう! プラスチック 地球が危ない! プラスチックごみ(全3巻)

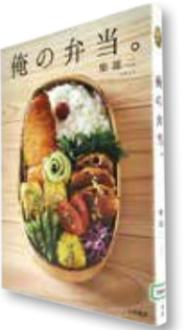
幸運社:編 汐文社

水面がプラスチックごみであふれている川があることを知っていますか。私たちの生活に不可欠なプラスチックですが、ごみを減らすために何ができるか考え、行動することが必要です。この本には、身近なことからできる、ごみを減らす工夫がたくさん載っています。

俺の弁当。

柴雄二:著 大和書房

自分のために、また家族のためにお弁当を作ってみませんか。これは家族のために毎日早起きをしてお弁当を作る父親が書いた本です。著者のように、ポリウムたっぷりのお弁当を作るのはハードルが高そうですが、お弁当作りのコツがたくさん紹介されています。



人権・同和教育シリーズ 499

人の生き方を考える



当たり前の中に...

祖母の部屋の片付けを手伝った時に、押し入れに古い教科書を見つけました。「これ、どうする?」と確かめると、祖母は「それは捨てないで。大切な物だから...」と言いました。なぜだろうと思いつきながら教科書を見てみると、祖母以外の名前が書かれているものがあることに気付きました。わたしが「他の人の名前が書かれているのは、どうして?」と尋ねると、祖母はその教科書を持って「これは、おさがりだからよ」と答えました。

「えっ、おさがり?教科書が?」と思議がるわたしに、「そうよ。昔は今みたいに学校で配られなかったのだから、買ったか、もらったりしてそれぞれの家庭で、そろえていたのよ。買うと高いから、わたしはもらったの。随分傷んでいたけれど、もしかしたら、また他の人に渡すかもしれないと思って大切に使っていたわ」と言っている、祖母は「でも、小学校5年生

の時に、学校で初めてみんなに教科書が無料で配られたのよ。その時のことは今でもはつきりと覚えているわ。それからは、毎年、新しい教科書で学べるようになったことが本当にうれしかった。この教科書を見るといろいろなことが思い出されるから、いつまでも捨てられないのよね...」と続けたのです。

わたしは、祖母が教科書を大切に残している気持ちがかかるとともに、教科書が無料で配られるようになった理由を知りたくなりました。

差別により、苦しい生活を強いられていた人々の中には、子どもを学校に行かせることが困難な人もいました。高知県のある地域の母親たちの「せめて教科書だけでも無償に」という切なる願いは多くの人の共感を呼びました。それが一つのきっかけとなり、1963年に義務教育諸学校の教科書を無償とする法律が施行され、翌年から順次無償配布されました。

「えっ、おさがり?教科書が?」と思議がるわたしに、「そうよ。昔は今みたいに学校で配られなかったのだから、買ったか、もらったりしてそれぞれの家庭で、そろえていたのよ。買うと高いから、わたしはもらったの。随分傷んでいたけれど、もしかしたら、また他の人に渡すかもしれないと思って大切に使っていたわ」と言っている、祖母は「でも、小学校5年生